

## 60周年から未来に向かって

## 夢・元気・感動をありがとう!!

## 出演者の声



**花役**  
齋藤聖礼さん(小幡小2年)  
「最初はうまくいかなかったけれど、教えてもらってうまくなり、うれしかった。楽しんでできた」

## イノシシ母役

齊藤陽直さん(福島小5年)  
「練習で習った踊りを家でも練習してがんばった。想像以上に拍手が多くて、喜んでもらえてよかった。自分も心から喜ぶことができた」



## サルA役

井上テオドロ昂生さん(新屋小3年)  
「緊張したけれど、最後までできてよかった。最初の歌を大きな声で歌えた。楽しく、思い出に残った」



## 実行委員長

岡田みゆきさん(善慶寺)

当日うれしいことが二つありました。一つは会場いっぱいたくさんの人が来てくださったこと。

甘楽町の子どもを応援してくれる人の多さ、温かさを実感し、今ここで子育てできる幸せと、未来への希望を感じました。二つ目は、途中で嫌になって抜ける子も体調不良の子もなく51人の子ども全員が当日の舞台に立てたこと。これまでの練習を通して「ふるきやら」の方々の本気さが、子どもたちに伝わったのだと思います。本気の子どもたちと劇団の皆さん、そして観客の皆さんとの心が響き合った素晴らしい公演になりました。子どもたちにとっても、一生心に残る経験になったと思います。



裏方として活躍した実行委員会の皆さん



白倉出身の女優 大河原もと子さん



堂々と演技する子どもたち



大きな声で元気な歌声を披露

「ふるきやら」の前身は劇団「ふるさとときやらばん」。甘楽町では、1984年以降15回ほど公演実績があり、町民有志の実行委員会が公演を支えてきました。今回も実行委員会を立ち上げ、10代、70代の25人が数カ月前から準備を進め、当日の運営まで行いました。10年前の町発足50周年記念ミュージカル「かんら町50さいめでたいな」の出演者も実行委員となり、裏方として活躍してくれました。

「ふるきやら」プロデューサーの安田研二郎さんは今回の公演を振り返り、「実行委員がいろいろなアイデアを出し合ってくれ、若い力を感じた」と話されました。

## 公演を支える実行委員会

大舞台を終えて、「ふるきやら」のスタッフからは、「輝いているのを見てうれしかった。これをいかして学校でもいきいき元気よく過ごしてください」と言葉がかけられました。子どもたちは、達成感に満ちあふれ、晴れやかな表情をしていました。

町の子どもたちが夢を持ち、元気と感動を与え、未来につながる60周年記念事業となりました。

これは、ミュージカルカンパニー「ふるきやら」の本格ミュージカルで、オーディションで選ばれた町内の小学生51人が出演し、作品に華を添えました。子どもたちは1月から歌や踊りなど4回の稽古とりハーサルに取り組み、本番を迎えました。

ミュージカルは生演奏の音楽で、自然やいのちをテーマに「不思議」と「驚き」に満ちた内容。子どもたちはキラキラ輝く瞳で練習の成果を披露し、満席の会場からは、子どもたちが登場するたびに温かい大きな拍手が送られました。

甘楽町発足60周年記念事業のフィナーレを飾る子ども参加ミュージカル「かめがもり しぼてん ミュージカル 瓶ヶ森の河童」が2月9日、町文化会館で開かれました。

未来につながる子どもたちの力